

# ほとけの 混和会だより

平成二十七年九月  
東光院  
仏の混和会  
第114号



## 青少年 比叡山の集い

八月二日〜五日、比叡山延暦寺の「青少年比叡山の集い」に参加させて頂きました。  
天台宗では、青少年の育成教化活動の一環として、日本の将来を担う若者の為に夏休みを利用して毎年この集いを開催しております。この集いは、『規律と合掌』をテーマに、日頃の生活では体験出



来ない規律ある生活と、合掌の心を持って生きる喜び、そしてあらゆるものに生かされていることへの感謝、更に社会へ奉仕することの大切さを学びます。  
東光院からは、小学六年生から中学三年生まで総勢十三名が参加させて頂きました。一路比叡山へと向かいます。  
八月三日は全国から集まった二百十名の参加者と共に、根本中堂にて共に他の幸を願う「発心会」に参加致しました。  
四日は比叡山の東塔、西塔、横川、この三塔を巡拝し、更に午後からは各国、各宗派の代表者が集う、「比叡山宗教サミット」に参加して、共に他宗を尊重し世界の平和を祈りました。  
そして最後に最澄様が灯された根本中堂の不滅の法灯の灯火をキャンプファイヤーの薪に点火して楽しく一夜が過ぎて行き五日の修了式を迎えました。

## アスレチックスのみなさん、今年も東光院にて合宿



八月二十九日〜三十日にかけて船尾アスレチックスの皆さんが、東光院で合宿を致しました。  
この合宿は今年で三回目、本年度は「羽釜でご飯を炊いてみましょう」と言う私の提案に快く承諾して下さい。檀信徒より借用した羽釜三台を並べ、薪でご飯を炊いて、みんなで頂きました。  
私の幼少の頃は、つるべで水を汲み、薪でお風呂を沸かし、ご飯を炊いておりました。薪割りや風呂沸かしは子供の仕事で、それが当然の如く行っておりました。  
昨今は、何をするにも大変便利に成りました。しかし何事に於いても、特に食事に関して、ありがたみとか感謝というものは、見失ってしまったように思われます。  
物事は、様々な苦労や試練を経験し、のりこえた時、大きな喜びや感動、又感謝が得られます。それと同じように、一杯のご飯を頂く事の難しさや人々の苦勞を体験出来た時、ものを頂く事の尊

## 日本の仏様



今号では如来・菩薩に続く三番目に位置づけられた「明王」の特徴について紹介します。

### 三、明王

明王とは温和な如来では言うことを聞かないような人を調伏するために、恐ろしい外見と怒りの表情をした姿に変身した如来をいい、多くはお不動さんの名前を親しまれているかと思えます。  
明王は奈良時代の日本には存在せず、平安時代初期、空海と最澄によってもたらされた密教と共に日本にもたらされた密教特有の仏様で、人間の世界と仏の世界との間にある炎に包まれた世界に住み、人間の煩悩が仏の世界に届かないように聖なる炎によつて焼き尽くしている仏様です。そのため、背中に炎を背負っています。

明王像を見ると様々な武器を手にしている像がありますが、その武器の一つ一つに意味合いがあり、右手に持つ剣は宝剣といい、魔を退散させると同時に人々の煩惱や悪い因縁を断ち切りま

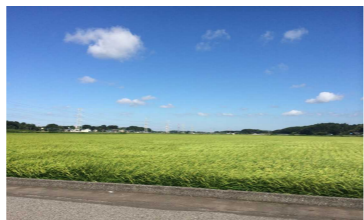
また、明王は岩の上に立っている像が多く見られますが、この岩はダイヤモンドの原石で出来ており、硬い岩の上に座することで「一切の人々を救うまではここを動くことはない」と決意する姿勢と何事にも屈しない忍耐力を現しています。  
この様に、明王は人々の心に住まう悪しき心や迷いの元である煩悩を、ありとあらゆる手段を持って壊し清め、全ての人々を救い導く仏様とされています。  
……続く

### ● 近隣の明王像 成田山新勝寺



言わずと知れた千葉県成田市にある真言宗智山派のお寺。護摩祈願を行っており、本尊である不動明王は空海によって造られたとされています。  
亮澄拝

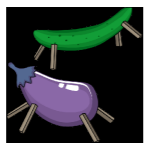
## 夏が終わって・・・



猛暑だった八月も過ぎ、幾分過ぎやすくなる季節になりました。皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。

今年のお盆を振り返ってみますと、棚行として多くのお宅へお参りに伺わせて頂きましたが、親切に気遣いをしてくださる方が多く、私自身つくづく恵まれたお盆参りであったと実感させられました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

## そばの種まきをしました



さて、話かわって先日、そばの種まきを行いました。八月末から九月にかけて天候の優れない日が続いた為、延期を繰り返しつつも今月の一日、小雨の降る中なんとか実施することができました。  
種まきに当たっては、岩井植木



さや感謝が得られます。  
ご飯が食べられてあたりまえ、電気があってあたりまえ、家族が何時も居てくれてあたりまえ、このあたりまえの生活の中に居た時は、すべてあたりまえ、感謝も喜びも感じ取る事は出来ません。  
真の感謝の念が抱けるのは、残念なこと、このあたりまえの生活を失ったときなのです。しかしこの経験によって不平不満やわがままな自我の心は抑えられ、共にいたわり合う慈愛心も抱けて参ります。ほんの少し、あたりまえの生活から離れてみると言うことはとても有意義なことと思われます。  
今、世間では震災や噴火などと様々な心配が叫ばれておりますが、みんなで助け合い一杯のご飯を頂いた、この経験は大きく生かされていくものと思われま



通称農園部長の松山さん、ほか七名でおこないました。

そばの栽培は今年でかれこれ十七年目となりますが、毎回異なる収穫の出来具合に、自然を相手にする農業の難しさを感じさせられます。

そばの種は、数日で芽が出始め、今月末までには白い小さな花をつけます。一つ一つは地味で小さな花ですが、七五〇坪の面積に植えられた蕎麦は畑一面を白く染め、美しい光景が広がります。



収穫は十一月ですが、種まきから、刈入れ・乾燥・脱穀・製粉まで自家製の手打ちそばは、年末の大掃除や節分会などで接待しております。



そばのたね



亮敬拝